

石井沙知さん

大学院修士課程
文化表現系教育コース
[芸術系教育分野(美術)]1年

大阪市出身。大阪府立港南
造形高校から愛媛大学教育
学部造形芸術コースを経て、
平成23(2011)年、大学院
修士課程に入学。昨年、日
展第3科(彫刻)に入選する。

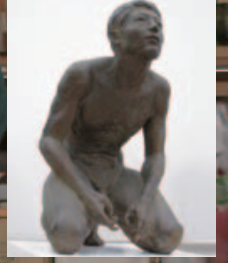


「contrast」2011年
幅75×奥行96×高さ180(cm)
FRP

山本将之さん

大学院修士課程
芸術系コース2年

岡山県出身。平成18(20
06)年、学校教育学部芸
術系コース(美術)入学。22
(2010)年、大学院に進学。
昨年、日展第3科(彫刻)で入
選する。今春から筑波大学の
前期博士課程に進む予定。



「雌伏の時」2011年
幅65×奥行70×高さ96(cm)
FRP

キラリな人 SHINY PERSON

日展入選を糧に これからも制作に励み 彫刻や美術に対する 考えを深めていきたい

同じゼミ生でも制作のスタイルは対照的だ。学部生時代に前芝准教授がクラス担任となったことが縁で彫刻を始めた山本さんは、さまざまな美術展に出品。昨年は日展を含む全国展などでの入選、受賞は8回を数えた。一方、石井さんは作り掛けてはやり直してと、じっくり時間を掛けるタイプ。作品数は少ないものの

「contrast」はその試みの一つである。石井沙知さんは、その時々自分の思いを人の形を借りて表そうとしていたが、最近では人の形をどのように解釈し、組み立てていくかということに重視しているという。膝を立てて座る女性をモチーフにした入選作「contrast」はその試みの一つである。

前芝准教授は今回の日展でも特選を受賞するなど、二人の前を走っている。しかし、成長を続ける彼らの視界には恩師の背中がしっかりと見えているはずだ。

前芝武史准教授のゼミ生である二人は、昨年の日展第3科(彫刻)でそろって初の入選を果たした。山本将之さんの作品「雌伏の時」は、両膝を地面につけ、顔を少し上げた男性が機をうかがっている様子をイメージさせる。「自分でいろいろポーズを試す中で、造形的に気に入ったものをモチーフにしています」

石井沙知さんは、その時々

日彫展で実績を積んできた。「僕は一つの作品が終わりがけると、次作の構想が膨らんでいきます。そのため、これ以上手を加えることができないと判断しても、先生には詰めが甘いと指摘されます」と山本さんが言えは、石井さんは「私は少しでも納得できるものを追求してしまっているので、考えたり迷ったりすることに時間を取られがちなんです」と苦笑する。二人とも前芝准教授から言われた「制作を続けることが大事」という言葉を肝に銘じている。「入選はうれしかったけど、これに慢心することなくまだまだ勉強しなくては」と思いを強くしました」と石井さん。今春から筑波大学大学院の前期博士課程に進む山本さんは「初めて先生の作品を見て感動したように、見た人に何かを感じてもらえる作品を作りたいですね」と意気込む。